

[内科](#) [総合内科](#) [消化器内科](#) [循環器内科](#) [呼吸器内科](#) [糖尿病・代謝内科](#)
[腫瘍・血液内科](#) [リウマチ・膠原病内科](#) [腎臓内科](#) [脳神経内科](#) [小児科](#)
[外科／消化器外科](#) [乳腺外科](#) [心臓血管外科](#) [呼吸器外科](#) [小児外科](#)
[整形外科](#) [形成外科](#) [眼科](#) [耳鼻咽喉科](#) [皮膚科](#) [産婦人科](#) [泌尿器科](#)
[脳神経外科](#) [放射線診断・IVR科／放射線治療科](#) [麻酔科](#) [精神神経科](#)
[病理診断科](#) [救急科](#)

選択科目カリキュラム

1. 内科

診療科の特徴

当科では、地域医療に貢献するため、総合内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、腫瘍・血液内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、脳神経内科が一丸となって、患者さんにやさしく、かつ質の高い医療を提供しています。

研修目標

内科各専門領域の垣根を越えてトータルとして質の高い総合力を身につけることを目標とし、内科各領域の外来、入院、および救急医療に積極的に出向き、基本技能を習得する。

研修内容、経験できる症例や手技

総合内科カンファレンスを週1回実施している。この中で、内科各分野の基礎的知識・技術が習得できるように、内科各領域の指導医層がミニレクチャーを毎回行っている。また月1回病理診断科と共同でCPCを実施し、研修医担当剖検例の検討を指導医とともにしている。

2. 総合内科

診療科の特徴

総合内科は、いわゆる臓器別診療科と異なり、臓器、疾患に縛られることなく、内科的疾患全般への対応を行っています。どの診療科を受診するのか不明の症例、あるいは複数の臓器障害を有する症例等を対象に、救急対応を含めた初期外来診療の窓口となるとともに入院診療も行います。

疾病の名前が同じであっても、その疾病を持たれる患者さんは一人一人皆異なります。医療とは病気を単に治療するのではなく、その病気を持った患者さんを治療することが重要です。そのために私たちは、入院外来共、それぞれの患者さんの必要に応じて他科専門診療科医師、看護スタッフ、薬剤師、理学療法士、社会福祉士など、多職種で共同しより良い医療を提供しています。同時に、「よい医療を提供することがよい医学教育である」という信念を元に、若手医師、若手医療スタッフを指導し、地域医療を支えていく優れた人材を育成することも大きな使命と考え、日々診療にあたっています。

研修目標

将来の専門分野によらず全ての医師にとって必要な基本的臨床能力についてその基礎を身に付ける。

研修内容、経験できる症例や手技

毎朝夕の担当症例プレゼンテーション、上級医とのラウンド、ベッドサイドでのデジタル資料を活用した診察手技や臨床推論、EBMの指導。

臓器別によらない感染症、敗血症、電解質代謝異常、意識障害などの急性疾患。

3. 消化器内科

診療科の特徴

消化器内科は、消化管および肝臓、膵胆道に関連する疾患群を扱っています。すなわち、これらの臓器に発生する様々な疾患を担当し、良悪性のいずれもが含まれる多彩な病態が診療の対象となります。

消化管疾患の診断においては、内視鏡診断が主体となります。通常の内視鏡観察のみでなく、拡大内視鏡や色素内視鏡、あるいは特殊光を用いた画像強調観察などを併用して精密な検査を施行しています。これらの手法により、病変の鑑別診断や範囲診断、進行度の判定、などが可能となります。また、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡による小腸病変の評価も積極的に行っています。一方、膵胆道病変においては超音波内視鏡を用いた精緻な観察によって病変の鑑別診断を行い、時に細径針を用いた穿刺吸引生検法を付加して病理組織学的な確定診断を試みています。さらに、院内に構築された緊密な協力体制の下で、体外式超音波検査やCT/MRを含めた各種の放射線検査を十分に活用して肝胆膵病変の正確な臨床診断に努めています。

治療に関しては、消化管の早期悪性病変については、内視鏡的粘膜下層剥離術や粘膜切除術を多数例で施行しています。また、食道胃静脈瘤に対する内視鏡的結紮術や硬化術、出血性胃十二指腸潰瘍の止血術、大腸憩室出血に対する止血術、などは、緊急対応を要する頻度の高い手技ですが、必要十分な機器を準備した専用の内視鏡処置室で対処しています。膵胆道疾患においては、内視鏡的胆管結石除去術、胆道ドレナージ術や胆管ステント留置術、膵嚢胞ドレナージ術や膵管ステント留置術、などの手技を厳密な適応判定の下で施行しています。さらに、その他の様々な疾患や病態に対して、十分な科学的根拠を考慮した上で、各種の薬物療法、化学療法、放射線療法、緩和療法などを過不足なく体系的に行うことを志しています。

研修目標

消化器疾患全般について、基本的な診断および治療法を修得することを目標とする。また、消化器領域の救急疾患に対する迅速な初期対応を修練する。

研修内容、経験できる症例や手技

上下部消化管、膵胆道および肝臓領域について、良性および悪性腫瘍、炎症性疾患、消

化管出血などを上級医と共に担当する。診断法としては、CT/MR 検査、超音波検査、各種内視鏡検査、などについて研修する。治療法については、薬物療法、内視鏡治療、外科手術、化学療法、放射線療法、緩和療法などを体系的に修得する。

4. 循環器内科

診療科の特徴

当科では、東播磨地域の循環器の中核病院として移植を除くすべての循環器疾患の診断と治療に対応しています。中でも治療においては積極的に最新のカテーテル治療を導入しています。24 時間 365 日、心臓血管外科との連携の中で循環器救急を受け入れています。狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患に対するステント留置、ロータブレードによる血管形成術（冠動脈インターベンション）、心原性ショック患者に対しては IABA（大動脈バルーンポンピング）、PCPS（経皮的補助循環装置）などの機械的補助装置を用い救命率の向上に挑戦しています。また心肺停止で搬送された患者さんに対し低体温療法を行い社会復帰率の向上に努めています。不整脈の中でも心房細動を含め上室性不整脈に対しては根治目的にてカテーテルアブレーションを実施し、心室頻拍、心室細動の患者さんに対してはカテーテルアブレーション、植え込み型徐細動器（ICD）の植込み術を行い突然死の予防に努めています。慢性心不全に対しては心臓再同期療法により心不全による入院、不整脈による突然死を防ぐ目的でデバイス植込み（CRT-D）を行っています。高齢化に伴い増加している大動脈弁狭窄症に対して手術リスクが高い患者さんにはバルーンによる経皮的な大動脈弁形成術や経カテーテル大動脈弁置換術などの最新の治療を実施しています。成人先天性心疾患についても小児循環器や小児心臓血管外科チームと共に治療に当たっています。重症下肢虚血患者に対してはバルーン、ステントによる下肢動脈形成術、形成外科との協力の下に下肢静脈瘤に対しレーザー治療を行っています。また、難治性高血圧に対する精査加療も実施しています。そして、心臓リハビリテーションによる予後の改善にも取り組んでいます。このように、非常に幅の広い疾患に対して正確な診断ならびに初期治療、入院治療を行います。最新の治療を導入し、患者さんの治療に最善を尽くすことを心がけています。

研修目標

当科では、循環器疾患全般の診断と治療（薬物療法並びに非薬物療法）の基本を習得する。循環器救急疾患に対して適切な初期対応を習得する。

研修内容、経験できる症例や手技

虚血性心疾患（狭心症、急性冠症候群）、不整脈、弁膜症、心不全、大動脈疾患（大動脈解離、大動脈瘤）、末梢動静脈疾患、成人先天性心疾患、二次性高血圧症などを指導医と共に受け持ち、診断と治療の基本を研修する。24 時間 365 日の循環器救急疾患受け入れを行っており、初期対応を研修する。循環器疾患の適切な問診、心電図や心臓超音波の実施と判読、心臓 CT や負荷心筋シンチ、カテーテル検査・治療の適応判断および実施や評価、心臓血管外科治療の適応判断、心臓リハビリテーションの適応と実践などを通して様々な症例を経験する。

5・呼吸器内科

診療科の特徴

加古川・高砂地域の呼吸器診療の中心として、ほとんどの呼吸器の病気に対応できると考えています。咳や痰など一般外来的なものから、重症の呼吸不全・肺癌など高度医療が必要なものまで幅広いのが呼吸器疾患の特徴です。当院ではPET-CTを含めた画像診断がしっかりでき、呼吸器外科医の赴任、新しい放射線治療装置（呼吸追従可能なリニアック装置）の導入で、充実した検査・治療が可能になりました。また総合病院として放射線診断・IVR科、放射線治療科、総合内科、リウマチ膠原病内科、循環器内科、耳鼻科、皮膚科などいろんな他科と垣根を低くしながら連携し診療に当たっています。緩和ケア治療も力をいれています。

検査に関しては、気管支鏡検査はCアーム型透視装置を使用し、検査時には静脈麻酔を用いてできるだけ侵襲が少ない様に心がけています。また原因不明の胸水には局所麻酔下胸腔鏡検査を、胸膜直下の病変にはエコーガイドやCTガイド下生検にて病理検体の採取を積極的に行っています。生理検査としては肺機能検査、呼気NO検査、気道抵抗測定（モストグラフ）、睡眠ポリグラフ検査もあります。

研修目標

当科は呼吸器疾患全般の診断と治療の基本を研修する。救急・重症患者の管理から診断・薬物治療に至るまでの考え方を習得する。

研修内容、経験できる症例や手技

肺悪性腫瘍、呼吸器感染症、喘息、COPD、間質性肺炎、呼吸不全などの幅広い疾患の理解に努め、診断と治療について研修する。胸腔穿刺やドレナージ、気管支鏡検査や胸腔鏡検査といった手技の修得だけでなく、緩和ケアや呼吸リハビリ、地域連携などで他業種との関わりを通して総合的な判断力を養成する。

6．糖尿病・代謝内科

診療科の特徴

急性期の糖尿病性昏睡にも対応しており、糖尿病性ケトアシドーシスや高血糖高浸透圧性昏睡（HHS）、重症低血糖も受け入れています。また、昏睡はなくても急速な高血糖状態の患者さんを受け入れ、約半数が1型糖尿病患者と診断し管理しています。1型糖尿病患者では、インスリン強化療法を積極的に施行しており、1日4回から5回のインスリン頻回投与治療か持続インスリン皮下注射療法（CSII）の導入・管理を行っています。また、糖尿病教育入院も実施しています。

当院は周産期母子医療が充実しており、妊娠糖尿病、妊娠合併糖尿病患者も多く、平成25年には60出産を超えており、平成26年は66出産あり、増加傾向です。K-DiEET（Kakogawa-Diabetes Dietary Exercise Education and Treatment）チームを結成し、チーム医療を実践しています。

研修目標

様々な病型の糖尿病について診断・治療ができることをめざす。代謝・内分泌疾患の急性期対応・慢性期医療を習得することを目標とする。

研修内容、経験できる症例や手技

1型・2型糖尿病の急性期・慢性期医療について病態に合わせ適切な治療を行う。合併症管理や周術期・周産期の代謝・内分泌管理を行う。内分泌疾患について適切な試験を行い診断・治療を実践する。

7. 腫瘍・血液内科

診療科の特徴

現在当科では、常勤医師 2 名により、主に血液悪性腫瘍の患者さんを中心に診療を行っています。また当院の医療圏には、種々の貧血や止血・凝固異常症など、多くの良性血液疾患の患者さんがおられますので、随時紹介を受け専門診療にあたっています。平成 28 年 4 月からは、固形腫瘍を専門とする非常勤医師（2 名）による診療も開始し、血液領域のみならず幅広い領域で、悪性腫瘍に対する診療に取り組んでいます。白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫など血液悪性腫瘍の患者さんに対しては、迅速かつ的確な診断を行い、新しい抗がん薬・分子標的薬などを取り入れながら、個々に適した最善の治療を提供しています。また当院（9 階東病棟）には、class1000 の無菌個室が 2 部屋、4 人部屋が 2 部屋設置されており、同時に 10 名の患者さんに対して、高度な無菌治療（白血病に対する化学療法など）が可能です。難治性血液悪性腫瘍の患者さんに対しては、造血幹細胞移植も実施しており、平成 26 年 1 月からは自家移植を、平成 28 年 4 月からは同種移植（血縁者間移植）を開始しました。また平成 29 年 8 月からは特定臨床研究として HLA 半合致血縁者間移植も行っています。当科で診療を行う全ての患者さんに対して、治療開始時より多職種によるチーム医療が実践されます。医師・看護師のみならず、理学療法士・作業療法士・管理栄養士などが日々患者さんと関わりながら、単なる予後や症状の改善のみならず、早期の社会復帰を目指した診療を行っています。また血液悪性腫瘍の患者さんやご家族には、当科主催の血液がん患者会「繋ぎの会」へも参加していただいています。患者さんやご家族同士が闘病に関する情報交換を行うだけでなく、ボランティアによる健康管理や就労支援などの情報提供も行われています。

研修目標

血液内科疾患および固形がんに対する診断と治療の基本的な考え方を学ぶ。また、骨髄検査など、診断に至るまでの基本的な手技を習得する。

研修内容、経験できる症例や手技

先天凝固異常や再生不良性貧血などの血液良性疾患から、白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫などの血液がん、神経内分泌癌や肉腫などの悪性腫瘍に至るまで、血液・腫瘍内科領域の患者に対する診療を、指導医と共に幅広く経験する。その間、診断・治療に必要な骨髄検査や腰椎穿刺などの基本的手技を学ぶ他、末梢血幹細胞採取や同種造血幹細胞移植な

ど、血液内科領域におけるより高度な医療技術の見学も行う。

8. リウマチ・膠原病内科

診療科の特徴

当科はH26年4月より診療を開始し、3名の日本リウマチ学会専門医が診療に携わっております。各曜日で専門医による外来診療を行うとともに、必要に応じて入院診療を行っております。

膠原病は多臓器に病変が及ぶ場合が多く、総合病院である当院の特色を生かし、院内各科と連携して診療を行っております。主な診療内容は、まずは必要に応じ組織検査も含めて病態を正確に把握した上で各種自己免疫疾患の診断を下し、ステロイドパルス療法や各種免疫抑制剤治療、血漿交換療法などの各種アフェレンス治療も含めて適切な治療を行います。また 関節リウマチに対しては関節エコーなどを用いて早期診断を行うとともに、総合的に評価、予後予測をし、新しい生物学的製剤を含めた薬物療法を開始します。入院中には適宜必要なリハビリテーションを、手術が必要な場合は当院整形外科と連携し治療を行います。

また、原因不明の発熱や関節痛、皮疹などの症状や原因不明の炎症反応の上昇などの検査値異常のある方も、自己免疫疾患の除外を中心に総合的に診断、治療を行っています。

研修目標

自己免疫疾患についての病態を理解し診断・治療について学ぶ。原疾患、急性期のみならず、感染症など治療に伴うリスク管理も含めて長期的な診療についても理解を深める。

研修内容、経験できる症例や手技

リウマチ・膠原病、その疑いも含めた幅広い症例を経験することで、一般的内科手技だけでなく、筋骨格・心・肺・腎・神経など多臓器にわたる病変の評価を行うことができる。検査結果とあわせて総合的に診断し、重症度に応じた治療を経験できる。

9. 腎臓内科

診療科の特徴

腎疾患および腎代替療法について包括的な診療を行うように、常勤スタッフ 2 名と専攻医 4 名で対応しています。当科では、かかりつけ医や地域の病院と連携をとりながら、腎炎（蛋白尿、血尿）、急性腎障害、電解質異常、慢性腎臓病（CKD）に幅広く対応し、CKDの進展予防のために重要な高血圧を始めとする生活習慣病の管理にも力を入れています。

腎炎に関しては、確定診断と重症度の評価のために適応がある症例について、経皮的腎生検を行い、確かな診断に基づいて適切な治療を行えるように努めています。

腎代替療法に関しては、循環器疾患をはじめとする合併症を抱えて入院してくる透析症例が増加しており、入院診療科のサポートも積極的に行っています。また、多職種と連携して、血液透析および腹膜透析の導入を行い、腎移植を含めた適切なオプション提示を心が

けています。

研修目標

当科では、様々な腎疾患の診断と治療及びアフレンシスを含む血液浄化療法の基本を習得することを目標とする。

研修内容、経験できる症例や手技

糸球体腎炎やネフローゼ症候群に対して経皮的腎生検の適応を判断し指導医と共に診断治療を進める。慢性腎臓病患者の教育入院による進展予防と末期腎不全患者に対する腎代替療法の呈示、SDM(Shared Decision Making)に基づく意思決定への関与を経験する。血液透析のアクセス作成から導入およびアクセスの維持と腹膜透析カテーテル留置と導入・維持を指導医と共に経験する。

10. 脳神経内科

診療科の特徴

当院脳神経内科は平成28年4月に開設され、スタッフ3名で外来・救急対応・入院加療を行っています。

脳神経内科では、脳・脊髄・末梢神経・筋肉といった神経系臓器の障害により起こる病気の診断と治療を行っています。脳腫瘍や脳動脈瘤など主に手術治療を行う診療科である脳神経外科に対して、脳神経疾患を疑う症状（頭痛が続く、めまい感、手足の脱力感や麻痺、ふらつき、転倒、歩行障害、振戦、しびれ感や感覚鈍麻、記憶力低下など）や疾患としては、脳卒中・脳髄膜炎・ギランバレー症候群・てんかん発作などに対して手術以外の内科的治療を行っています。経過の長い慢性疾患に対する精査加療から脳血管障害のような急性疾患に対する治療に至るまで、幅広い疾患の対応を実践しています。

研修目標

脳神経系疾患について、病歴聴取、神経学的検査などから局在診断をつける。画像、髄液検査、神経生理学的検査による診断、標準的な治療方針を理解する。

研修内容、経験できる症例や手技

夜間、休日もオンコール体制をとっており、脳卒中、てんかんなど発作性疾患、意識障害などの神経救急疾患への対応を経験する。認知症、神経変性疾患、神経免疫疾患などを指導医と共に担当し、各疾患への知識を深め、診断・治療を学ぶ。髄液穿刺を始めとした脳神経領域の検査手技を経験する。

1 1. 小児科

診療科の特徴

当院小児科は、東播磨地域におけるこどもの健康を守る基幹施設として、予防接種・乳児健診といった健康管理から小児救急、慢性疾患、周産期医療にいたるまでのさまざまな小児医療に取り組んでいます。

小児一般病棟（こどもセンター）は56床の病床を持ち、成長過程にある小児の専門医療や24時間の二次救急医療に対応しています。

周産母子センター（新生児部門）はNICU15床、GCU30床の計45床を持ち、地域周産期母子医療センターとして24時間体制で新生児の入院を受け入れて高度集中治療を行っています。また、当院はWHO/UNICEFより「赤ちゃんにやさしい病院」に認定されており、産科や院内各部門とも連携し母乳育児をはじめとする育児支援活動にも力を入れています。

研修目標

小児の特性と発達を理解し、主な疾患に関する基礎的知識を学び、小児や新生児に対する初期的な診療技能を習得する。

研修内容、経験できる症例や手技

感染症や川崎病、けいれん性疾患など小児に特徴的な急性疾患のみならず、アレルギー・免疫疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、血液疾患など慢性的な疾患の管理や乳幼児の保健について経験する。新生児医療や小児救急医療についても上級医の指導のもと経験する。

1 2. 外科／消化器外科

診療科の特徴

加古川市をはじめ東播磨地域の基幹病院として、良性・悪性を問わず消化器疾患全般（食道、胃、大腸、肝臓、胆道、膵臓）及び乳腺疾患を対象に診療を行っています。最近の外科治療の流れである低侵襲治療、集学的治療、個別化治療を念頭において治療を行っております。さらに3次救急を除く救急症例に対して、積極的に対応しています。

当科における治療方針は各種ガイドラインに準拠した標準治療を原則としています。

低侵襲手術として鏡視下手術を行っておりますが、昨年度3D内視鏡手術システムを導入した結果より安全にかつ精密に鏡視下手術を行うことができるようになり、鏡視下手術の適応も拡大し症例数が大幅にふえました。今年度から鼠径ヘルニアの手術も原則として腹腔鏡で行います。

高度進行癌症例に対しては術前治療として放射線治療や化学療法を行った後に、積極的に切除療法を行っています。一方、個別化治療として根治性は損なわずに機能温存や縮小手術を取り入れています。

研修目標

消化器外科領域を中心に悪性腫瘍・急性疾患の病態を理解し、外科的なアプローチについて理解を深める。

研修内容、経験できる症例や手技

市中病院において経験することの多いヘルニア・虫垂炎に対しては助手あるいは術者として経験する。また悪性腫瘍については術前の画像診断、治療計画、手術および術後管理まで指導医とともに主治医の一人として主体性を持って経験してもらう。

1 3. 乳腺外科

診療科の特徴

当科は昨年 4 月に乳腺外科が開設されました。疾患としては乳癌だけでなく乳腺炎、乳腺症などの良性疾患など、乳腺疾患全般に対応しています。診療は、ガイドラインに沿った標準治療を提供する事を基本にしています。加えて、乳癌で亡くなる人が限りなく 0 に近づけるよう、検診やドックの精度を上げる一方、残念ながら進行癌であっても、化学療法や放射線療法も駆使し一人一人の病状、背景に応じたよりよい医療を提供するのが私たちの役割と考えています。充実のスタッフと共にプロフェッショナル集団としての誇りを忘れず、本来の”患者さんに寄り添う乳腺診療”を目標に診療しています。

研修目標

乳腺疾患について理解を深め、その診断と治療について学ぶ。また、手術に参加し、基礎的な手術手技、内容を学ぶ。

研修内容、経験できる症例や手技

入院患者さんの診察のみならず、指導医の外来診察について初診時から診断にいたるまでの検査や、乳癌と診断してから手術までの準備について学び、また手術後の補助療法（ホルモン療法・化学療法・放射線療法等）についてもその適応から治療までの過程についても学ぶ。また、外科的治療では、乳腺腫瘍摘出術、乳房切除術・乳房部分切除術（センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節廓清）、乳房再建術を指導医と共に経験し、手術手技や内容および術後管理についても理解を深める。

1 4. 心臓血管外科

診療科の特徴

東播磨地区の循環器疾患を受け持つセンターとして心臓移植、再生医療など特殊なものを除く心臓血管外科領域のほとんど全ての手術を行っております。虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患、末梢血管、先天性心疾患の診療を循環器内科、小児科と日々密接な連携を取りながら手術にこだわらずカテーテル治療やお薬による治療、運動療法など一人ひとりの患者さんに合わせた最良の治療を提供できるように考えています。突然の発症や急激な病

状態悪化で救急搬送される患者さんに対しては24時間体制で対応しております。近年増加している透析患者さんに対しては心大血管および末梢血管疾患はもちろん、透析シャントの不具合も受け入れております。他部門とのチーム医療を得意としており、末梢血管は循環器内科、形成外科とフットケアチームとして医師だけでなく専門看護師など他部門が一丸となって個々の患者さんに最適の治療を行っています。大動脈瘤のステントグラフト治療、大動脈弁のカテーテル治療にも力を入れており、多くの治療を行っています。生まれつきの心臓病、先天性心疾患に関しては小児科、循環器内科が合同でカンファレンスを行い新生児から成人まで治療にあたっています。

研修目標

当科では成人領域における心大血管、末梢血管疾患および先天性心疾患の病態の理解と、外科的治療の基本を取得する。

研修内容、経験できる症例や手技

成人領域では冠疾患に対する冠動脈バイパス手術、弁膜症に対する人工弁置換術や弁形成術、大動脈瘤や解離に対する人工血管置換術およびステントグラフト手術、閉塞性動脈硬化症に対する下肢動脈バイパス術、先天性領域ではASD、VSD、ファロー四徴症などに対する姑息手術および心内修復術を指導医とともに経験し、術後の血行動態の管理を習得する。

15. 呼吸器外科

診療科の特徴

加古川市をはじめとした東播磨地区の中核病院として、呼吸器疾患の治療をより厚くするため平成28年4月より加古川西市民病院に呼吸器外科が開設されました。当院はスタッフの豊富な呼吸器内科の専門施設であり診断・治療内容が充実しています。毎週呼吸器グループによるカンファレンスによって、患者様に応じた治療方針を決定しています。放射線診断・IVR科、放射線治療科や病理診断科とも連携し診療にあたっていきます。当科の手術は胸腔鏡を用いた低侵襲手術を第1選択としています。原発性肺癌に対しても適応症例には可能な限り完全鏡視下手術を行っています。適応外症例に対しては胸腔鏡補助下の開胸手術を行っています。開設当初は専門医1名でスタートしましたが、平成30年度から2名体制になりました。今後もさらなる充実した治療を行います。

研修目標

呼吸器外科領域を中心に悪性腫瘍・急性疾患の病態を理解し、外科的なアプローチについて理解を深める。

研修内容、経験できる症例や手技

市中病院において経験することの多い呼吸器外科の疾患に対しては助手あるいは術者として経験する。また悪性腫瘍については術前の画像診断、治療計画、手術および術後管理まで指導医とともに主治医の一人として主体性を持って経験してもらう。

16. 小児外科

診療科の特徴

東播磨地域の中核病院として新生児医療・小児医療に取り組んでいる小児科の全面的な協力を得ながら、小児外科は小児の外科的な病気の診療にあたっています。

日本小児外科学会では「こどもを安心して預けることができる外科医」の育成をめざして専門医制度を設けており、小児外科専門医・指導医・認定施設が学会の厳正な審査を受けて認定されています。当院小児外科は兵庫県で、6施設ある専門施設の1つで、大学病院、こども病院とともに3つある認定施設のうちのひとつです。小児外科指導医専門医3人(指導医2人)が常勤しており、小児外科専門医を目指す若手の先生とともに診療しています。

研修目標

新生児、乳児、小児の外科的疾患について理解を深め、その診断、治療について学ぶ。

研修内容、経験できる症例や手技

小児の外科的疾患としては、外臈径ヘルニア、虫垂炎といった頻度の高いものから、食道閉鎖、鎖肛、ヒルシュスプルング病、壊死性腸炎などといった新生児外科疾患について経験し、診断や外科手術について学ぶ。また、小児腹腔鏡手術についても経験する。

17. 整形外科

診療科の特徴

整形外科は、スタッフ8人と整形外科専攻後期研修医1人の計9人で東播磨地域の基幹病院として整形外科診療を行っております。

当科の特徴としては、変形性関節症をはじめとする関節疾患に力を入れていることが挙げられます。当科では、『関節センター』を開設し、関節疾患の専門的治療をより充実させるように努めています。様々な関節疾患に対してMRIやCTをはじめとした各種画像を用いた正確な診断、投薬や筋力訓練等の保存的治療の指導、そして最先端の手術的治療を行っています。特に、人工関節手術ではナビゲーションシステムを導入する事により、安全で確実な手術を心がけています。一方、人工関節手術が適応にならない若年者に対しては、骨切り術や関節鏡手術などの骨温存手術を積極的に行っています。このように、個々の患者さんにとってより良い治療法を、患者さんと相談しながら行うように心がけています。

関節疾患以外にも、これまで通り外傷疾患やスポーツ障害などの治療をはじめ整形外科疾患一般を幅広く対応しています。

手術に際しては、整形外科的な問題だけではなく、循環器、呼吸器、消化器に重大な合併症がある方、癌などの悪性疾患を治療中の方、認知症のある方など、他科の医師や理学、作業、言語療法士および管理栄養士などのスタッフと総合的に連携しての治療を実施しています。

研修目標

様々な整形外科疾患の診断と治療の基本を学ぶ。

特に、整形外科的な救急疾患（主に外傷）に対しての適切な初期対応も習得する。

研修内容、経験できる症例や手技

外傷疾患（骨折や筋腱損傷など）や関節疾患（変形性関節症など）を指導医と共に受け持ち、診断と治療の一連の流れを経験してもらう。

また、外傷などの整形外科的な救急疾患に対する初期対応も、指導医と共に経験してもらいながら学んでもらう。

関節疾患に関しては、ナビゲーションなどの最新の技術を駆使した治療を経験してもらう。

18. 形成外科

診療科の特徴

形成外科の対象範囲と疾患は多岐にわたっており、代表的な疾患としては熱傷、顔面外傷（顔面骨骨折を含む）、口唇口蓋裂・合指症・多指症・内反症・折れ耳や埋没耳・臍突出症などの先天奇形、皮膚・皮下腫瘍、傷跡・ケロイド、褥瘡・足壊疽などの難治性潰瘍、といったものがあります。その他、当院では静脈瘤、リンパ浮腫といった治療も行っております。患者さんにわかりやすい説明を行い、その上でしっかりした治療を行うこと心がけております。

研修目標

当科では、様々な形成外科疾患の診断と治療の基本を習得する。形成外科救急疾患に対して適切な初期対応を習得する。

研修内容、経験できる症例や手技

形成外科的診察法・診療録記載法

- 1) 手術前・後の管理
 - 2) 創処理
 - 3) 難治性潰瘍の創傷管理
 - 4) 形成外科的諸手術における助手
 - 5) 皮膚腫瘍切除など簡単な手術の部分執刀
- といった内容を行う。

19. 眼科

診療科の特徴

現在当科は東播磨地区の基幹病院として様々な疾患に対応しております。スタッフは常勤医師5名、非常勤医師4名、視能訓練士6名、看護師・医療クラークとなっております。外来には中央手術室に準じた小規模ですがクリーンルームが設置されており、手術用顕微鏡・患者ベッド等も備えておりますので、硝子体注射を含めた処置、小手術に迅速に対応

可能となっております。

また、眼科手術はますます小切開手術化がすすみ、入院期間もより短期間に設定しております。通常の白内障手術は2泊3日。また、高齢者の場合には入院による転倒等のリスクを軽減するため1泊2日入院で対応し、硝子体手術は疾患により5日～13日となっております。小児疾患・緊急疾患もすべて対応し治療にあたっています。

研修目標

眼科領域における一般的な診療・手術手技を習得し、ある程度の診断・治療が行えるようにする。

研修内容、経験できる症例や手技

診療手技：細隙灯を用いた診察手技をはじめ、眼科の一般的な検査を一通り習得する。
手術手技：白内障手術の助手を行いながら手技を習得し、最終的には一人で完投できることを目指す。その他、霰粒腫・翼状片・眼瞼腫瘍といった外眼部手術を習得する。

20. 耳鼻咽喉科

診療科の特徴

地域の基幹病院として、診断、検査及び入院・手術治療を中心に診療しております。常勤医4名体制になりました。当院の特色である周産期医療、小児医療に関連して、耳鼻咽喉科でも小児の症例が豊富です。成人症例も良性疾患はほぼ当院での治療は可能です。また嚥下機能評価も行い、対象であれば言語聴覚士に依頼して嚥下訓練を行うことができます。

鼻副鼻腔手術は内視鏡を用いて行い、ほぼ全例全身麻酔で行っています。また耳下腺、顎下腺など頸部手術の際は神経刺激装置を用いて顔面神経麻痺などの合併症を予防しています。

悪性疾患で専門的治療を要する場合は、兵庫県立がんセンター、神戸大学医学部附属病院に紹介しています。

研修目標

耳鼻咽喉科の一般的な疾患の診断、治療について理解し、鼻出血、めまいなどの救急疾患についての初期対応ができるようになる。

研修内容、経験できる症例や手技

耳鼻科疾患に関して病態や診断、治療の流れなどを理解する。

手術室での見学、参加により、外科的処置を経験する。

耳鏡、鼻鏡、ファイバースコープなどを用いた局所の観察の仕方を学ぶ。

鼻出血、めまい、咽喉頭の急性炎症などの救急疾患の処置を経験する。

2 1. 皮膚科

診療科の特徴

平成 26 年 4 月よりリウマチ科の先生方が赴任され、不明熱、関節痛、皮疹など膠原病を疑う疾患に対して、リウマチ科の先生方と一緒に積極的に診断・治療にあたっています。他、尋常性乾癬や関節症性乾癬など生物学的製剤注射の適応があれば導入前のスクリーニング検査をして導入しています。小児に多い皮膚疾患も多く診察しており、必要に応じて小児科と連携して診断・治療に当たっています。

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、食物や薬剤によるアレルギー疾患の検査・治療、自己免疫性水疱症の診断・治療、円形脱毛症に対する SADBE 療法、帯状疱疹や蜂巣織炎などの皮膚感染症、皮膚腫瘍（良性・悪性）の診断・治療（ただし、当科では手術加療できない皮膚腫瘍もあります）など、多岐にわたる皮膚疾患にも対応しています。

研修目標

皮膚科独自の疾患や内臓疾患との関連がある皮膚疾患など皮膚科にはいろんな疾患があるので、その全体像だけでもいいので習得できるようになる。

研修内容、経験できる症例や手技

- ・真菌鏡検
- ・問診、的確な皮疹の表現
- ・皮膚生検、皮膚腫瘍切除術時の助手（例 糸切）
- ・糸の縫合の仕方

2 2. 産婦人科

診療科の特徴

産科部門では、この地域における地域周産母子医療センターとして、新生児科、内科、脳外科等と連携して、合併症を持つハイリスク妊娠の管理をより安全におこない、年間約 900 件の分娩を取り扱っています。さらに救急部、手術部、麻酔科等と共に産科救急疾患への迅速な対応をおこなっています。赤ちゃんにやさしい病院（ユニセフ認定）のスタッフが LDR 分娩室や院内助産室等を活用して、母乳育児と健やかな親子関係の形成の援助をスムーズにおこなっています。また、婦人科部門では、子宮筋腫、子宮腺筋症、卵巣嚢腫等の開腹手術による治療、卵巣嚢腫や子宮内膜症、子宮外妊娠に対する腹腔鏡、子宮粘膜下筋腫、子宮内膜ポリープに対する子宮鏡手術、子宮頸部上皮内病変、子宮脱に対する膣式手術を行っています。また自己血輸血、子宮動脈塞栓術など、臨床検査室、放射線診断・IVR 科、放射線治療科との連携により、より安全、低侵襲な治療を行うように心掛けています。なお前癌病変、早期癌の治療は行っています。

研修目標

産婦人科診療を適切に行なう上で必要な基礎的知識、技能、態度を習得する。

研修内容、経験できる症例や手技

専門医による指導のもと、周産期医療、婦人科腫瘍、さらには内分泌疾患、更年期障害等に対する研修を行い、技術と知識を習得するとともに、患者と医師間における信頼関係を獲得することを目標とします。産科では、胎児エコーや周産期管理を多数、学ぶことができます。婦人科では多くの手術症例の周術期管理を経験することができます。産科手術では、子宮頸管縫縮術、子宮外妊娠手術、早期の帝王切開や前置胎盤や超緊急帝王切開を経験することが出来ます。婦人科では、子宮筋腫、卵巣嚢腫などの良性疾患に対する開腹術や腹腔鏡手術、子宮鏡手術を経験できます。

23. 泌尿器科

診療科の特徴

当科は平成12年4月より常勤医師2名体制で開設いたしました。平成17年6月に新外来棟が竣工、平成18年3月より尿路結石破碎装置の導入、平成21年4月よりホルミウムレーザー治療セットが導入され、上部尿路結石に対する内視鏡手術（f-TUL）、前立腺肥大症に対する治療である経尿道的レーザー前立腺核出術（HoLEP手術）も可能となりました。

ハイリスク前立腺癌の患者さんを中心に放射線診断・IVR科、放射線治療科と共同して治療を行っています。さらに新病院開設時には手術支援ロボット（ダビンチ）を導入し、手術件数も多くなりました。

悪性腫瘍患者さんにつきましては、なるべく正確な臨床病期の把握を行い、各病期に応じた標準的治療・評価を行っています。平成28年4月より常勤医3名体制となり一層の診療の充実が図れました。

研修目標

泌尿器科外来、病棟にて基礎的診察、処置を学ぶ。手術に参加し、基礎的な手術手技、内容を学ぶ。

研修内容、経験できる症例や手技

病棟患者を指導医と共に担当。外来では主に検査・処置係を担当。基礎的な泌尿器科的診察、画像診断（KUB、CT、MRI）、検査（US、膀胱鏡検査など）、泌尿器科的処置（導尿、バルンカテ留置、尿管ステント留置術）を学ぶ。手術では指導医と主にTURBT、HoLEP、TUL、ESWL、腹腔鏡下手術、開放手術などを学ぶ。

24. 脳神経外科

診療科の特徴

当科の特徴としては、播磨地区にて最も長い歴史を持つ脳神経外科として、多くの地域医療機関との連携網が構築されています。また、当院にて新たに新設された脳神経内科と

も常時協力体制がとれています。

対症疾患は脳神経外科疾患全般ですが、特に水頭症・二分脊椎・頭蓋縫合早期癒合症などの先天性疾患を含む新生児・小児脳神経外科疾患には力を入れており、当院周産母子・こどもセンターと連携し、小児脳神経外科疾患に関してはほぼすべてに初期対応が可能です。

成人では、脳神経内科と協力し脳血管障害の診断と治療、特に頸動脈ステント治療、脳動脈瘤コイル塞栓術などの血管内治療に力を入れています。

研修目標

脳神経外科疾患の診断から治療適応、術中術後管理まで一連の脳神経外科疾患治療の流れについて理解を深める。

研修内容、経験できる症例や手技

神経学的診察、神経放射線学的診断が出来る。

脳血管障害に対する血管内治療の対象疾患、適応を理解し、専門医指導の下穿刺・カテーテル操作等の手技を経験できる。

先天性疾患等小児脳神経外科疾患を経験する。

25. 放射線診断・IVR科／放射線治療科

診療科の特徴

単純X線写真、胃・大腸等の透視検査、CT、MRI、マンモグラフィ、血管造影等のX線を用いた各種の検査をはじめ、核医学検査においても通常のSPECTに加え、最近では癌診療に必須の検査であるPET-CTなどの多様な検査の実施と画像診断を行っています。SPECT検査は循環器疾患が中心ですが、骨シンチ、脳血流シンチ等にも対応しています。またMRIについては、3テスラMRI装置に加え静音タイプのMRI装置を導入し、3台体制となりました。さらに診断能の向上を目指すとともに、患者に優しい検査を目指しています。

IVRについては、肝細胞癌や転移性肝癌に対し肝動脈塞栓療法や、ラジオ波焼灼療法などを施行しています。他にも子宮筋腫の治療として子宮動脈塞栓術や、各種の出血に対する緊急止血術、中心静脈ポート留置術、さらにCTガイド下での生検や膿瘍ドレナージなど幅広いIVRを行っています。また、閉塞性動脈硬化症に対する血管形成術や大動脈瘤や大動脈解離に対するステントグラフト治療を循環器内科や心臓血管外科と協同しながら取り組んでいます。

放射線治療については、開院時に高性能な治療装置（TrueBeam™）を導入し、年間約350名の放射線治療を実施しています。対象疾患は肺癌、食道がん、乳がん、前立腺がんなど多岐にわたり、放射線治療専門医、放射線治療専門技師、医学物理士、放射線治療品質管理士、がん放射線療法看護認定看護師が専従し、精度の高い安全な放射線治療を患者さんに提供しています。従来から行っている画像誘導放射線治療（IGRT）、定位放射線治療（SRS/SRT）、肺癌などに対する呼吸同期照射や前立腺癌等に対する強度変調放射線治療（IMRT）の精度はさらに向上しています。それに加えて動体追跡システムも導入し、現在

稼働を開始しており、動きのある病変部に対してもさらに高度な放射線治療が可能になりました。がん集学的治療センターの化学療法部門、手術療法部門、緩和ケア部門と連携し、患者さんにとって最良の治療を提供しています。

研修目標

画像診断学、IVR、放射線治療等の基礎的な知識と技術を取得し、その知識に裏打ちされた適切な検査及び治療計画を立案することを目的とする。

研修内容、経験できる症例や手技

CT、MRI、PET-CT、SPECT を中心とした画像診断、単純 X 線写真、胃・大腸等の透視検査。IVR については、肝動脈塞栓術、RFA、UAE、緊急止血術、CV ポート留置術、EVT、ステントグラフト治療や CT ガイド下での生検や各種穿刺術。放射線治療については、各種疾患に対する治療計画の基礎。

26. 麻酔科

診療科の特徴

麻酔科は当院で行われる全身麻酔の全症例と、リスクを伴う脊椎麻酔症例や帝王切開症例を担当しています。具体的には、未熟児・新生児から 90 歳を超える高齢者に至るまで幅広い年齢の患者さんを対象とし、またさまざまな疾患に対応するべく、大学病院・こども病院・循環器病センター・救急病院などでトレーニングを積んだ麻酔科専門医・認定医が麻酔管理を行います。

麻酔をかける主な目的は「安全で快適に手術を受けていただくこと」です。安全に麻酔を行うためには、術前に患者さんの状態を十分把握することが必要です。そのために術前検査を実施し、手術前日までに患者さんのところに訪問し問診・診察します。必要な場合は追加検査も行います。

手術中は患者さんの状態に合わせて心電図、血圧計、経皮的酸素飽和度モニター（パルスオキシメーター）、脳波モニターなどを用い、常に全身状態、麻酔状態を監視・維持しています。

当科は術後の鎮痛対策も行っており、胸部や腹部手術の疼痛管理には持続硬膜外麻酔を行ったり、整形外科手術などには超音波ガイド下神経ブロックを施行したりして、良好な鎮痛を得ています。これらの手技ができない症例では、鎮痛剤の持続的静脈投与を行うなど、いろいろな方法を使用して術後鎮痛を行います。

研修目標

手術を受ける患者の全身管理を行う。循環呼吸生理の基本を学ぶ。手術室における危機管理の基本的な考え方を学ぶ。

研修内容、経験できる症例や手技

外科系ほぼ全科の手術患者の麻酔を指導医とともに担当する。術前評価から麻酔計画を立て、実際に麻酔を行い術後評価をする。末梢静脈確保、動脈ライン確保、脊髄くも膜下

麻酔の手技を習得する。喉頭鏡、ビデオ喉頭鏡、声門上器具を用いて気道確保をおこなう。術後鎮痛の方法を学ぶ。

27. 精神神経科

診療科の特徴

現在、スタッフは常勤医師3名、臨床心理士4名（非常勤）。多くの人に幅広く医療を提供する立場から、診療対象となる疾患は精神疾患全般であり、特に限定はしていません。主な特色は以下の点です。

1. 現在、初診は完全予約制であり、精神療法、薬物療法を中心とした治療を行っています。
2. 総合病院の精神科であるため、外来診療で認知症の早期診断・早期治療を実施しています。
3. 入院施設はありませんが、入院が必要な方は適切な施設を紹介します。
4. 医療保険で臨床心理士によるカウンセリングを実施しています。（医師の診察要。予約制。）
5. 各種、心理検査、知能検査を実施しています。
6. 精神疾患に関する各種診断書・書類の受付、認知症の成年後見に必要な診断書、鑑定も実施しています
7. 認知症疾患の早期発見・治療を目的とした専門外来「もの忘れ外来」を開設しています。
8. 兵庫県より東播磨圏域における「認知症疾患医療センター」の指定を受けています。

研修目標

当科では、様々な精神疾患の診断と治療（薬物療法並びに精神療法）の基本を習得する。精神疾患の急性期に対しての初期対応を習得する。

研修内容、経験できる症例や手技

認知症、せん妄などの器質性精神障害、統合失調症、双極性感情障害、神経症、不眠症、知的障害、自閉症スペクトラム障害など、様々な精神疾患を指導医と共に受け持ち、診断と治療の基本を研修する。精神疾患の急性期の対応、リエゾン診療、様々なチーム活動を経験できる。

28. 病理診断科

病理診断は直接患者さんの質的な最終診断に結びつくもので、正確かつ迅速な病理診断で臨床全科に対応し、各診療科の医療水準の向上に寄与しています。また、単に病理診断を下すだけでなく、多彩な患者さんへの具体的対応の consult や、他院の標本の consult も受けています。

さらに、毎月、手術・剖検例を基に各診療科と合同の検討会を行い、当院で施行された医療の質を再検討しています。今日の目覚しい分子生物学・遺伝子学を中心とする医学の進

歩により一部の疾患概念も変貌し、特に癌治療では癌細胞の標的製剤が毎年開発、追加され、製剤の臨床適応のため癌遺伝子の検索もルーチンとして必要になって来ています。病理診断科／臨床検査室のスタッフは可能な限り検討会や研修会、学会、セミナーに積極的に参加し、日進月歩の医療の最先端を目指しています。

研修目標

臨床研修医として、有効に病理医と連携するすべを知る。あるいは、病理医たるに必要なことを知る。

研修内容、経験できる症例や手技

手術例の肉眼的観察、切り出し、検鏡を通して、病理に提出された検体が処理、診断される過程を知り、病理から質の高い情報を得るために必要なこと（伸展固定などの検体処理、依頼に書く臨床所見など）を学ぶ。期間中に解剖があれば、副執刀で参加し、CPCのときに病理所見を提示する。

29. 救急科

診療科の特徴

救急科は救急医療を中心に集中治療、災害医療を担当しています。

【救急医療】

全科の協力のもと平日昼間帯と日曜の救急当番日、土曜の救急・輪番当番日に主に救急車で搬入される救急傷病者の初療に当たっています。救急診療で最も重要なのは時間です。軽症・重症、内因（病気）・外因（外傷・中毒・熱中症など）を問わず、迅速な病歴の聴取と身体所見の把握、そして並行して処置（点滴、採血、止血）、諸検査（血液・心電図・超音波・CT・X線など）を行い、搬入から30～40分以内に疾病・病態を診断して治療方針を決定しています。必要な時には専門医とともに診療しています。

【集中治療】

Speedy / Simple / Smart をモットーに重症患者の治療に当たるとともに、救急科以外の患者に対するアップデートな治療法や人工呼吸管理を助言し、気管切開、CVカテーテル留置、血液浄化などをサポートしています。

【災害医療】

地震（東南海地震：震度6強、最高3m津波）、異常気象（洪水、竜巻、大型台風・・・）、列車事故などがいつ起こるか判りません。どのような災害にも医療対応できるよう平時から迅速な診療、複数傷病者の並列診療、迅速な病棟入院と専門病院転送などを実践しています。また、地域の総合防災訓練、マラソン救護班などに積極的に参加しています。

研修目標

ありとあらゆる内因性疾患、外因性疾患の救急傷病者（年間 2500 例程度）を診て、緊急度、重症度を評価する力をつける。

研修内容、経験できる症例や手技

- 院外心肺機能停止例に対する 1 次救命処置、2 次救命処置
- 外傷傷病者への FAST を含めた超音波検査
- 混虫創傷、マムシ咬傷、犬・猫咬傷、軽微な創傷、熱傷などに対する簡単な創傷処理
- 急性薬物中毒